

都道府県名	広島県
-------	-----

I 学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	山県郡戸河内町立戸河内中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	12
生徒数	31	26	31	0	88	

II 研究の概要

1. 研究主題

「生活の力と学習の力の一体化を図り、その基礎・基本の定着により学力向上をめざす。」
 ～「知育・徳育・体育」の調和のある学校教育の創造～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- 仮説1 に関して全学年を通して保健体育科、道徳、学活
 健康の増進、体力の向上を図るには「体づくり運動」に取り組んでいる保健体育科を通して研究を進めることが必要であると考えた。
 基本的な生活習慣の大切さや生活のリズムの必要性については、道徳・学活を中心に取り組むことが必要であると考えた。
- 仮説2 に関して全学年を通して英語科、数学科
 英語科、数学科は生徒の習熟に差が出やすいことから習熟度別学習を組むことが必要であると考えた。
 また、これまでの研究授業等の研究成果と生徒に対する実態調査の結果、英語科・数学科から研究に取り組む必要があると考えたため。

(2) 年次ごとの計画

- 平成15年度
- テーマ
 「生活の力と学習の力の一体化を図り、その基礎・基本の定着により学力向上をめざす。」
 ～「知育・徳育・体育」の調和のある学校教育の創造～
 - 研究の仮説
 仮説1：基本的な生活習慣を身につけることで健康の増進・体力の向上につながれば学力が向上するであろう。
 仮説2：生徒個々の実態把握と分析を通して、個々に応じたきめ細やかな指導を行い指導と評価の一体化を図れば、学力が向上するであろう。
 - 研究内容・方法
 (1) 仮説1
 ①生活実態調査、家庭学習に関するアンケートによるデータ収集と分析
 ②新体力テストのデータ収集と分析
 ③自学習のすすめ方の改善
 ④授業づくりマニュアルの徹底
 (2) 仮説2
 ①授業改善アンケートによるデータ収集と分析
 ②授業工夫改善
 ・1年生、数学科・英語科において、はつらつプランにおける習熟度別学習の実施
 ・2・3年生、数学科・3年生、英語科において、習熟度別学習の実施
 ・全学年、国語科・保健体育科・3年生、理科において、TT指導の実施
 ③研究授業
 ・学力向上フロンティアティーチャーを中心とした校内研修の立案と組織的な研修の促進
 ・指導主事を招聘した授業研究を国語科・数学科・英語科の3教科を中心に実施
 ・校内研修における授業研究の町内各学校、保護者、地域への積極的な公開

	<p>④観点別評価をもとに絶対評価における、評価規準を明確にする研究を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準の精度と信頼性を高める取組 ・統一した補助簿の作成 ・座席表の活用 <p>(3) 仮説1, 2 共通 先進校視察研修</p>
--	---

平成 16 年 度	<p>○テーマ</p> <p>「生活の力と学習の力の一体化を図り、その基礎・基本の定着により学力向上をめざす。」 ～学力向上を図る個に応じた授業・家庭学習の創造～</p> <p>○研究の仮説</p> <p>仮説1：自学習の習慣を定着させ、授業と家庭学習をリンクさせれば学力が向上するであろう。 仮説2：生徒個々の実態把握と分析を通して、個々に応じたきめ細やかな指導を行い、指導と評価の一体化を図れば、学力が向上するであろう。</p> <p>○研究内容・方法</p> <p>1年次で明らかになった研究の道筋に沿って、基礎的・基本的な内容がより確実に定着するための具体的な研究の内容を明らかにする。</p> <p>(1) 仮説1</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自学習のすすめ方の改善と充実した活用 ・学級指導, 教科指導を通じた活用の徹底 ・宿題の個別化とチェックの徹底 <p>(2) 仮説2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導と評価の一体化と徹底した個別化による授業工夫改善 ・徹底した個別化をはかる座席表と補助簿の活用 ・評価から評定の確かな流れの整理 ・町内小学校での複式授業における「ひとり学び」「共学び」の思考過程を活かした習熟度別学習の研究
--------------------	---

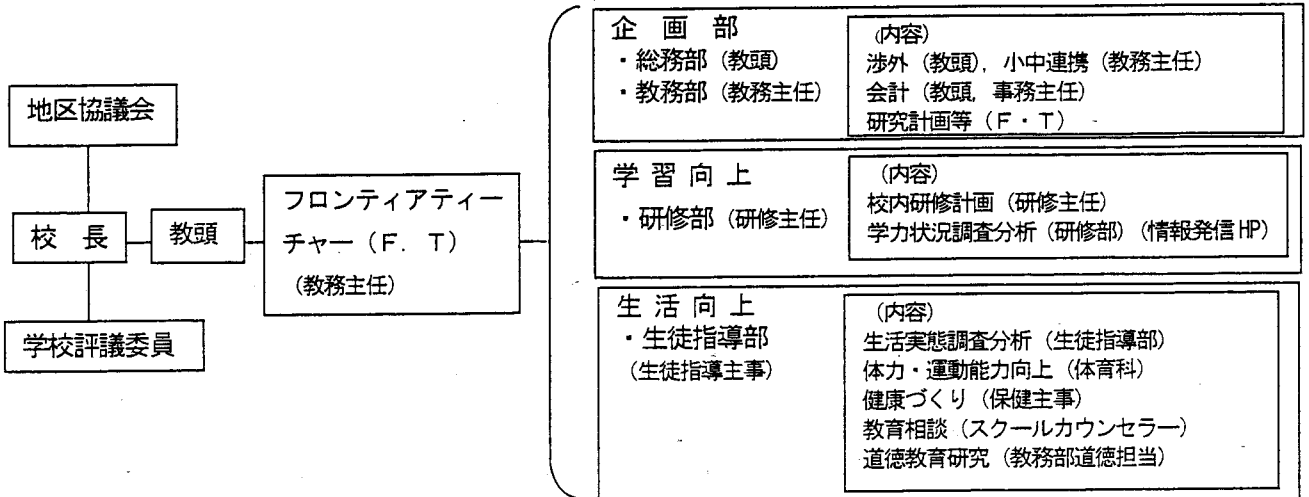
(3) 研究推進体制

①地区協議会の設立

<ul style="list-style-type: none"> ・芸北教育事務所の職員 ・フロンティアスクールの校長 ・戸河内町教育委員会担当者 <p>※その他, 必要に応じて町等の関係者の出席を求める。</p>
--

②戸河内教育研究プロジェクトとの連携を図っていき、戸河内町全体の研究体制で行う。

③戸河内中学校学力向上フロンティア研究推進委員会組織図



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

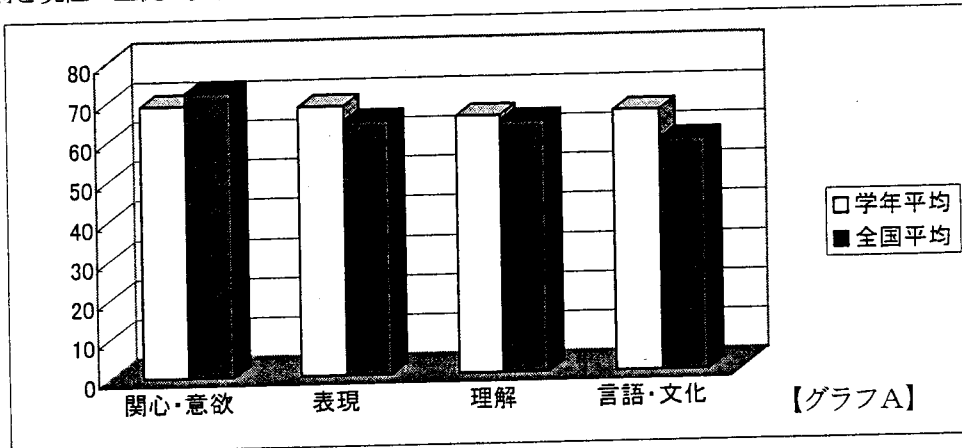
1. 仮説2における研究成果 英語科の取組

(研究成果をわかりやすく説明するために仮説2の成果から述べる。)

(1) 成果

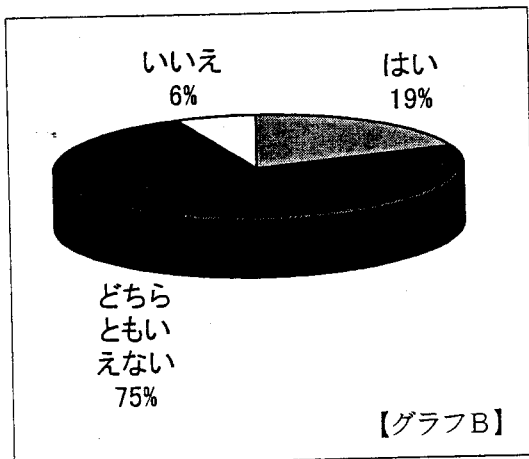
- ①英語科においてスキット(寸劇)を取り入れた授業工夫をすることで生徒の意欲が向上した。
- ②スキット作成段階において習熟度別学習により個に応じた指導を行うことで生徒全員が自信を持ってオリジナルの会話文を発表できるようになった。

(2) 研究前と現在の生徒の変化

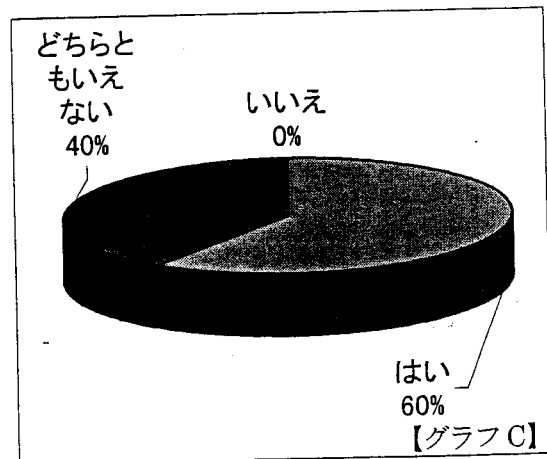


平成14年度 CRT 学力検査 観点別学力定着状況 英語科

上の【グラフA】は、平成15年3月に2年生(現3年生)で実施した英語科のCRT学力検査の観点別の結果をグラフ化したものである。この図から表現、理解、知識・理解は全国平均を上回っているのに対し、関心・意欲は全国平均を下回っていることがわかる。課題として、これまでの授業が、コミュニケーション能力を身につけさせたり、生徒に「考えた」という充実感を感じさせたりすることが不十分で、生徒にとって受身的な授業になっていた。そのため、生徒には魅力的な授業とはいえず、それがこの結果につながっていたと考えられる。



平成15年4月25日実施



平成15年12月5日実施

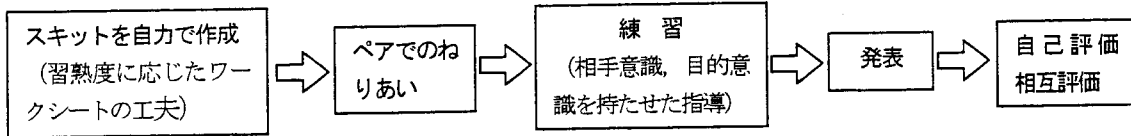
上の【グラフB・C】は授業改善アンケート、3年生英語科の結果を示したものである。「意欲的に受けることのできる授業でしたか」という質問に対して、4月25日では「はい」が19%であったのに対し、12月5日では「はい」が60%に増加している。また、「いいえ」と答えた生徒が一人もいなくなっている。

生徒たちの英語科への意欲が増し、昨年度英語科暗唱大会に参加するメンバーがいなかったのに対して、今年度は4名の生徒が参加している。また、文化祭では、3年生の半数の生徒が英語を使った表現活動でステージ発表を行っている。また、定期テストでは、2学期の中間テストの平均点が59.8点であったが、2学期期末では74点となった。また、点数が上がっている生徒は31人中29人であった。

(3) 生徒の学習意欲についての研究の具体

①思考力・表現力を高める手立て

～スキット (寸劇) への取組みを通して～



②指導と評価の一体化への取組み

○座席表の活用 (観点別Cの生徒をBに引き上げる取組み) (英語科座席表の記入例)

(名前□□□□) (記入例1)

○課題 (本人の様子)
自力で書くこと、読むことが困難である。授業態度は大変積極的であり、発表のときは大きな声でパフォーマンスをつけて発表できる。

○本時でつけたい力
少なくとも2文は覚え、発音・抑揚に気をつけて発表できる。

○そのための手立て
発表前にアイコンタクトをつけて練習しているかどうかをチェックし、適切な発音指導をしていく。

(名前□□□□) (記入例2)

○課題 (本人の様子)
英語への苦手意識が強い。基礎からの個別指導が必要である。読むことを苦手とするため、書くことが困難である。

○本時でつけたい力
2文は相手の目を見て適切な発音で発表できる。

○そのための手立て
棒読みにならないよう発表前に適切な発音を指導していく。

教卓

〈例〉座席表

※座席表は、個別化を図り、一人一人をきめ細かく見ていくために行っている取組みです。

○自己評価(授業振り返り表)、相互評価カードの取組

授業振り返り表

授業日	12月4日(水) 4限時		
単元名	Speaking Plus 5 授業で 感想をうたげる		
3	4	5	6

① 授業中に積極的に発言できたが、 (1) - 2 - 3 - (4)

② 授業内容が理解できず、 (1) - 2 - 3 - (4)

③ 今日の学習で満足できなかったが、 (1) - 2 - 3 - (4)

④ 次の学習でチャレンジしたいことを書いてください。
少し英語を話せるようになりたい。聞かせるくらいもっとリスニングをする。

⑤ 今日の学習に対する感想、希望などを書いてください。
授業は楽しくて、今や楽しくて覚えやがてよい。今のままでやればいい。

相互評価表

基準 A 内容が記憶できている。感情がこもっている。
 B 流暢な声の大きさである。アイコンタクトができています。
 C ほとんどアイコンタクトがない。感情なし

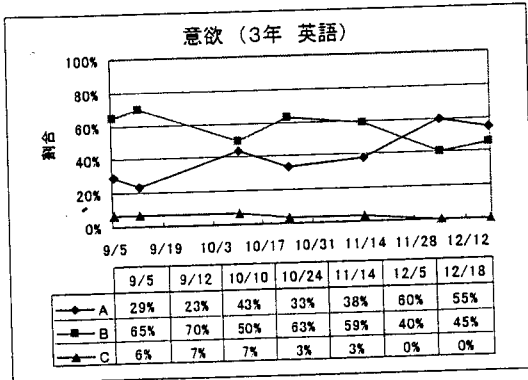
Name	評価(ABC)	コメント
1	B	一生懸命さが伝わった。
2	A	全体的に伝わった。
3	A	伝えようとした所が、A評価がよかった。
4	B	発音があつた。
5	B	くねくねも、うまく伝わった。
6	B	音が伝わってきた。

※上の授業振り返り表は生徒が授業後行っています。生徒の意欲関心を高めると共に次への授業の改善に使っています。

※上の相互評価カードは発表等の時に行っています。生徒同士が評価しあうことで意欲が高まっています。

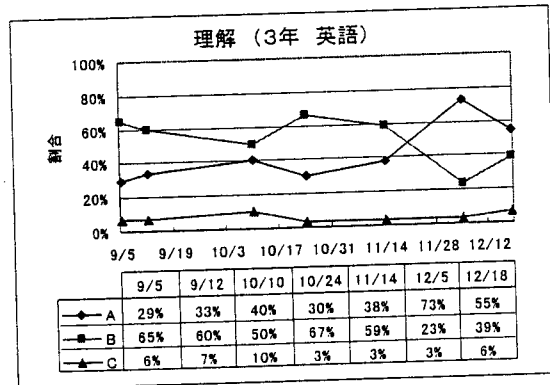
○授業改善アンケート

(意欲的に受けることのできる授業でしたか)



A: はい
B: どちらともいえない
C: いいえ

(分かりやすい授業でしたか)



※授業改善アンケートは各授業の意欲、理解について生徒が行っているアンケートです。
グラフは英語科の2学期の集計です。

③繰り返し指導の工夫 (単調な練習から生徒が主体的に取り組む活動へ)
授業での帯タイムによる5分間テストの実施

2 仮説1における研究の成果
学習に関する家庭環境の取組

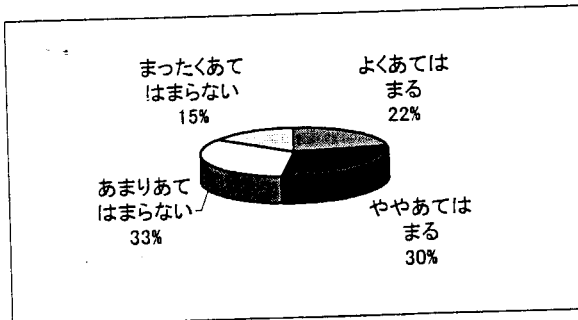
(1) 成果

生活リズムや基本的な生活習慣の確立などにより家庭学習への取組みも充実し、学力が向上している。

(2) 研究前と現在の生徒の変化

〔家庭学習環境のアンケート結果より〕

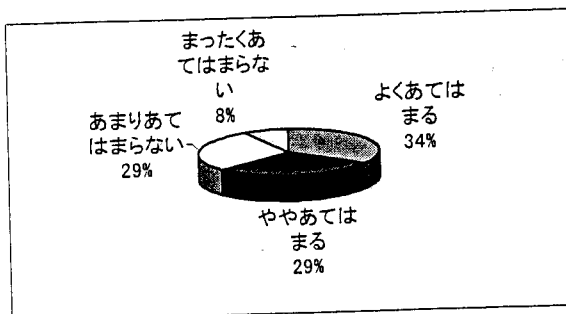
図1のアンケート結果は1学期7月上旬に、全学年を対象に生活に関する項目14項目、学習に関する項目21項目、計35項目について「1. よくあてはまる」から「4. まったくあてはまらない」までの4件法によりアンケートを実施したものである。「落ち着いた雰囲気家庭学習ができます。」という質問における生徒の状況である。約半数の生徒が「あてはまらない」と答えており、家庭学習の環境についての取組みが必要であると考えた。



よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
19人	26人	28人	13人

1学期	
人数	86
平均	2.41
標準偏差	1.00

【図1】1学期の集計結果



よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
30人	25人	25人	7人

2学期	
人数	87
平均	2.10
標準偏差	0.98

【図2】2学期の集計結果

（※統計処理を行った結果）

【図1】と【図2】は、1学期と2学期の平均および標準偏差を示したものである。t検定の結果、両条件の平均の差は有意であった。（両側検定： $t(171)=2.02, p<.05$ ）。したがって、2学期の方が1学期に比べ、落ち着いた雰囲気で家庭学習ができていることが分かる。

また、2学年（ $N=25$ ）のアンケートデータと2学期末テストの9教科合計点を用い、落ち着いた雰囲気で家庭学習ができていることと学力との関係を調べた。

【表1】アンケートデータと2学期期末テストの平均および標準偏差

	アンケートデータ	2学期期末テスト
平均	2.04	603.88
標準偏差	0.84	140.93

表1は、アンケートデータと2学期期末テストの平均および標準偏差を示したものである。相関係数は.440であり、有意であった（ $F(1,23)=5.52, p<.05$ ）。以上の結果から、落ち着いた雰囲気で家庭学習ができていることと学力との関係には、正の相関がある。落ち着いた雰囲気で家庭学習ができているれば学力も高いということが分かる。このことから、戸河内中学校では、2学期の方が1学期に比べ、落ち着いた雰囲気での家庭学習ができてきて、学力向上にもつながってきていると考えられる。

(3) 取組

- 学級指導を通して「授業づくりマニュアル」（戸河内中版授業規律マニュアル）（資料1）の徹底を図る。
 - ・学習規律・学習環境の重要性を理解させる。
 - ・授業開始直後、本時の目標を確認し、板書→授業終了前、目標に対する評価
- 帰りの会で授業反省を行い、家庭学習のポイント等の確認をする。
- 学校便り、学級通信を通して、家庭での学習環境の意義と整備を依頼する。
- 「自学習のすすめ方」（戸河内中版家庭学習のやり方マニュアル）で学習のしかたの指導
（国・数・英3教科について冊子にし4月配布）

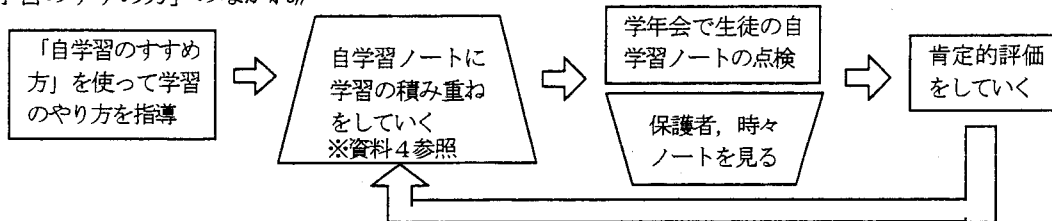
【例 数学科・3年生・自学習のすすめ方】

小学校段階の問題で苦手なところを克服するには	基礎力を定着させたい人	発展的な問題に取り組みたい人
○学習の総整理のP4～P11まで、小学校での復習問題が解説付きなので、それを見ながら学習していく。 ○分からなければその都度、先生に質問する。 ○基礎計算ドリルにも最初に小学校段階での計算問題がのっているので、それをやってみる。	○3年生の内容については、学習の総整理の要点チェックを見ながらチェック問題をする形のほうがよい。 ○計算力の向上のためには、新・基礎計算ドリルを行う。 ○計算過程は必ず書き、間違いは見直しをしておくこと。	○先取り学習をする場合は、学習の総整理を見ながら進めていくと良い。（教科書の例題でもよい） ○不得意な領域をなくすために、その分野の問題を解き解説を読み、理解し、そのことを繰り返して定着させる。 ○入試問題を解く上でも上記で述べたような形でおこなっていく。
	○間違えた箇所は必ず見直し、一定期間をおいて必ず復習する。（誤答ノートなどつくっておくとよい。） ○定期テストなどは、問題の構成も考えて作ってあるので必ずとっておき、再度チャレンジテスト前などにやってみる。 ○宿題は必ず提出すること （分からない場合は、色線でチェックし、教科担任の先生に相談する。） ○年1.0回のテストが復習するチャンス。計画性をもって学習していこう。	

○自学習年間計画（例）

月	基礎・基本	応用	発展
4 ～ 7	○ステップパワードの要点整理の説明を読みながら、A問題をやっていく。	○ステップパワードの要点整理の説明を読みながら、B問題をやっていく。	○ステップパワードの要点整理の説明を読みながら、チャレンジ問題をやっていく。
夏 休 み	○ステップパワードの要点整理の説明を読みながら、A問題をやっていく。 ○計算問題集の1年までの内容を復習する。 ○学習の総整理をする。解説を読みながらチェック問題を行う。（特に1・2年中心の内容・不得意分野に取り組む）	○ステップパワードの要点整理の説明を読みながら、B問題をやっていく ○計算問題集の2年までの内容を復習する。 ○学習の総整理をする。基礎の完成コースをする。（特に1・2年中心の内容・不得意分野に取り組む）。	○ステップパワードの要点整理の説明を読みながら、チャレンジ問題をやっていく。 ○計算問題集の現在までの内容を復習する。 ○学習の総整理をする。基礎の完成と入試問題に挑戦する。（特に1・2年中心の内容に取り組む）
9 10 11 12 1	○学習の総整理をする。基礎の完成コースをする。 ○計算問題集を3年の範囲まで内容を復習する。 ○もう一度学習の総整理をする。 ○受験校の入試問題をとく。	○学習の総整理をする。基礎の完成コース（3年）と入試問題にチャレンジする。 ○計算問題集を3年の範囲までの内容を復習する。 ○1年から3年までの教科書の補充問題をやっておく。 （公立受検の人は特に勉強する） ○入試問題集を使い、実践問題をする。	○学習の総整理をする。要点整理などの解説を見ながら予習する。 ○1年から3年までの教科書の補充問題をやっておく。 （公立受検の人は特に） ○入試問題をとく。 不得意分野の克服 ○入試問題をとく。 （志望校に絞る）

《「自学習のすすめ方」のながれ》



3. 今後の課題

(1) 仮説1について

- 自学習のすすめ方の改善と充実した活用
 - ・学級指導，教科指導を通じた活用の徹底
 - ・宿題の個別化とチェックの徹底

(2) 仮説2について

- 指導と評価の一体化と徹底した個別化による授業工夫改善
 - ・徹底した個別化をはかる座席表と補助簿の活用
 - ・評価から評定の確かな流れの整理
 - ・町内小学校での複式授業における「ひとり学び」「共学び」の思考過程を活かした習熟度別学習の研究

IV 学力把握のための学校としての取組

- ・6月に広島県「基礎・基本」学力実態調査の実施
- ・2月に全学年C.R.T（観点別到達度学力検査）の実施
- ・年間を通じて1年生 2年生 3年生 チャレンジテストの実施
- ・数学科，英語科単元到達度テストの実施
- ・新体力テストの実施

○研究会開催による公開と普及

平成16年11月5日(金)本校において研究会を開催することで成果等の普及

○ホームページによる公開と普及

取組の具体的事例とその成果等について紹介することで普及

○芸北地区協議会において、管内小・中学校に研究の方向性や具体的な取り組みなどについて発表

- ・ 第1回芸北地区協議会 7月29日 千代田町役場
- ・ 第2回芸北地区協議会 11月7日 向原小学校・向原中学校
- ・ 第3回芸北地区協議会 12月9日 土師ダム研修センター
- ・ 第4回芸北地区協議会 2月5日 芸北地域事務所

資料 1

戸河内中学校授業づくりマニュアル

ねらい

基礎・基本をしっかり身につけ、一人ひとりの力を伸ばす授業を創っていくことを目標とする。また、授業のルールをきちんと理解し、全校で守っていく。

授業規律の基本

- 1 チャイムが鳴るまでに席に着く。
(授業間の10分間は軽いリフレッシュ、トイレ、教室移動、授業準備などの時間であり遊び時間ではない。)
- 2 提出物、授業道具などの忘れ物がないようにする。
(忘れてしまった場合は授業担任に事前に連絡する。)
- 3 話す、聞く、作業、考えるなどの節度を守る。
- 4 積極的に発言をする。(まちがいを恥ずかしくない。また、まちがいや失敗を絶対笑わない)

具体的な内容

- 1 席に着き、授業が始まる前に、授業道具を準備しておく。
- 2 先生が教室に入り前に立ったら、手はひざの上に置き前を向く。このときに私語をしない。
- 3 全体が静かなのを確認したら代表の者が号令をかける。
「起立、気をつけ、礼、『お願いします』、着席」
お互いが、この1時間を充実した者にするためにしっかり声を出し、姿勢を正してあいさつをする。
- 4 先生 「授業目標をお願いします。」
担当生徒 授業目標を発表する。
- 5 授業の受け方
 - ・先生の話を書くときには、頭を上げ先生の方をしっかりと見、手は膝の上に置き、背筋を伸ばし姿勢を正す。
 - ・発言(質問・意見)は、手を挙げて、積極的におこなう。
 - ・学級全員の聞く姿勢を確認して話す。
 - ・発表者の方をしっかりと見る。発表者は、大きな声・適切な速さで発言をする。
(単語だけの発言をしない。 [例]『～です。』『～だと思います。』などをきちんと言う)
 - ・ノートを取る時、作業をするときは私語をせず集中しておこなう。
- 6 単元に応じて、授業終了前5分になったら、自己評価を記入する。
- 7 授業評価
 - 先生 生徒からの目標に対しての評価をする。
本時の目標に対しての評価をする。
- 8 号令をかける
「起立、気をつけ、礼、『ありがとうございました』、着席」

教科係の仕事内容

- ・朝会が始まる前(5分前が望ましい)に宿題を集め、集計しておく。
- ・一週間の授業が始まる前に教科担任と話し、その週の目標を決めて記録簿に記録しておく。
- ・授業後は教科担任の評価を聞き、反省を記録簿に記録しておく。
- ・週末に暮会でその週の反省を発表する。

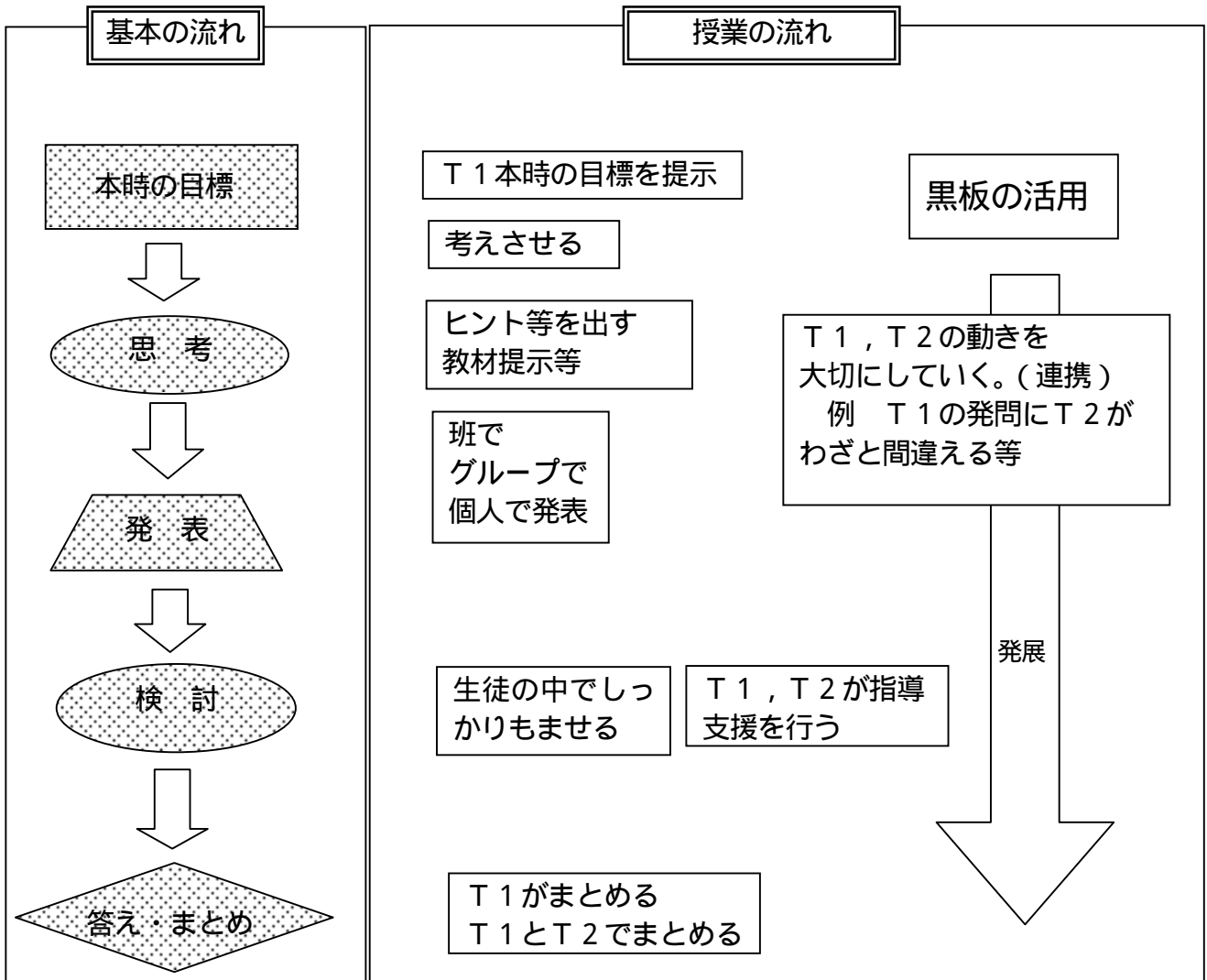
資料 2


戸河内中学校 T T 基本パターンについて

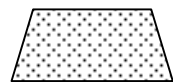
1 ねらい

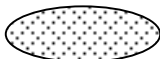
本時のねらいに迫るためにチームティーチングの基本形を作り，パターンを増やしていくことで授業改善につなげていく。

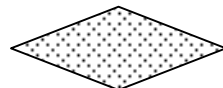
2 基本パターン



 ----- 指導者からの働きかけ

 ----- 生徒の活動

 ----- 生徒が考える場面

 ----- まとめ・答え

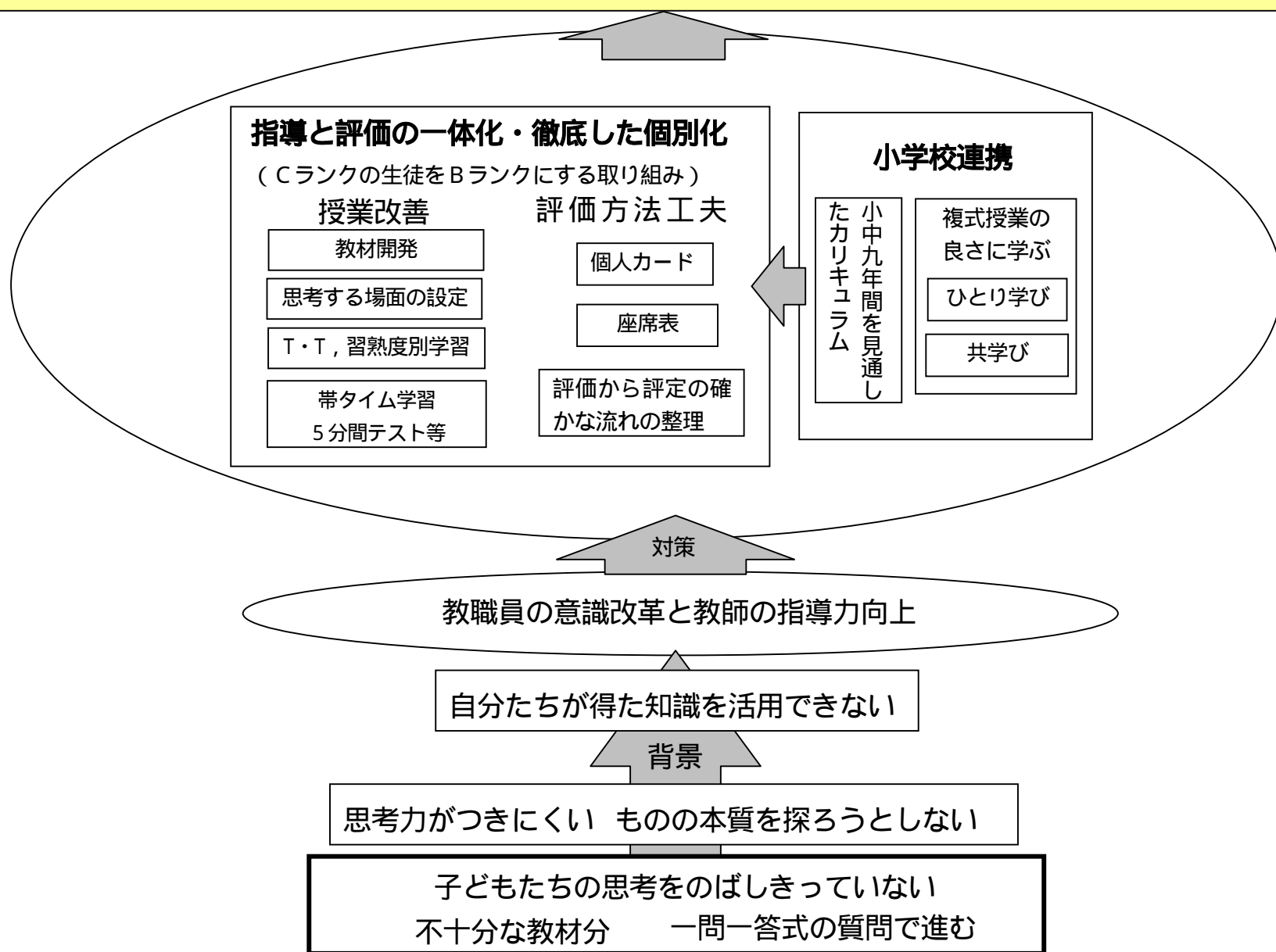
教材をしばってすすめていく
 目標は基礎・基本，発問も目標に即して行う

3 基本パターンについて

国語，数学，英語，体育，理科（3年生）についての T T パターン

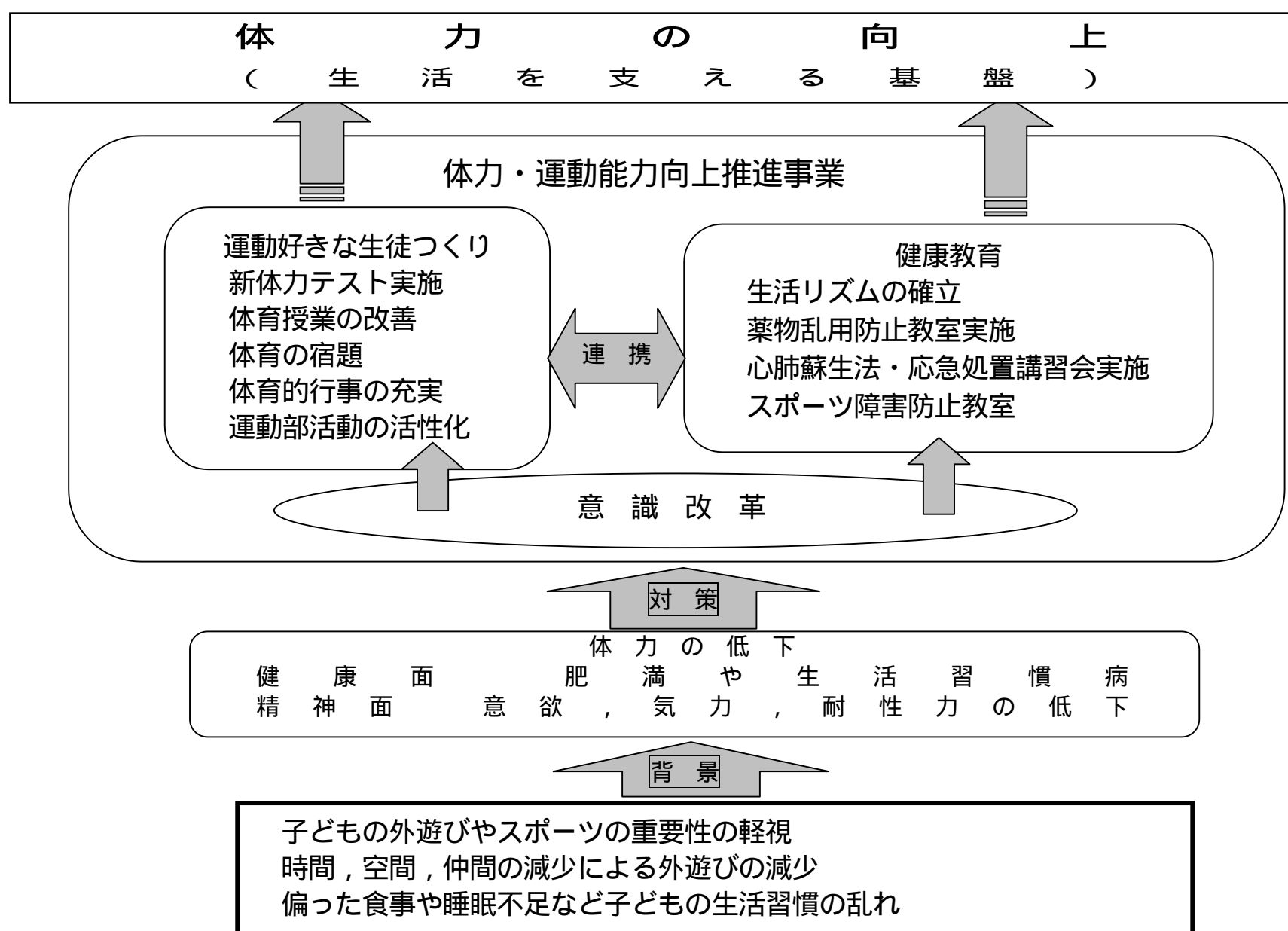
仮説2

生徒個々の実態把握と分析を通して個々に応じたきめ細やかな指導を行い指導と評価の一体化を図れば、学力が向上するであろう。

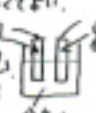


仮説1

基本的な生活習慣を身につけることで健康の増進・体力の向上につながれば学力が向上するであろう。



冬休み 理科・社会 過去問、模擬テスト

- 平均1時間、強
- ① (1) イ、エ (2) ①大きく ②薄く (3) 45W (4) マイクが切れて
1.5秒ほど音が出なくなるが、音が消えたら音がまた出る。
- ② (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) 太陽電池 
- ③ (1) ①: 500 = 6.5 = 76.92cm/s (2) コーヒーをいれるので、お湯の方が
流れが早く、お湯をいれるので、お湯の方が
- ④ (1) ①は、アルカリ性の性質である。②は、中性の性質である。
③ I
④ ①は、もう一つのビーカーに汚れた川の水を入れて、お湯をいれる。
⑤ 下水をそのまま川へ流さないようにする。

電流

<電力> 電気器具の能力を表す量

電力(W) = 電流(I) × 電圧E(V)

1000(W) = 1(kW)

× 時間t(秒)

↓

発生する熱量(J)

1J = 0.29cal
約4.2J = 1cal

大地の変化

土の種類	土の種類別の名前	粒の大きさ	特徴
泥岩	粘土、泥(汁、粘土)	0.05mm未満	細かすぎて目に見えない
砂岩	砂	0.05~2mm	肉眼で見える
礫岩	礫	2mm以上	肉眼で見える
砂岩	砂		特徴が不明
礫岩	礫		特徴が不明

気体の性質

- ② (1) $-7 + 3 - 5 = -9$
 (2) $2 - 10 + 3 = -5$
 (3) $5 - (-2) + 3 = 10$
 (4) $8 - (4 - 7) = 11$
 (5) $\frac{2}{3} - (-\frac{1}{3}) + \frac{1}{2} = \frac{2}{3} + \frac{1}{3} + \frac{1}{2} = 1 + \frac{1}{2} = \frac{3}{2}$
 (6) $\frac{1}{2} - (\frac{1}{2} - \frac{1}{2}) = \frac{1}{2} - \frac{1}{2} + \frac{1}{2} = \frac{1}{2}$
- ③ (1) $(-3) \times 4 = -12$
 (2) $4 \times (-5) = -20$
 (3) $(-6) \times (-7) = 42$
 (4) $(-3)^2 = 9$
 (5) $(+12) \div (-4) = -3$
 (6) $(-6) \div 2 = -3$
 (7) $8 \times (-\frac{1}{2}) = -4$
 (8) $(-12) \times \frac{1}{6} = -2$
- ④ (1) $7 + 3 \times (-4) = 7 - 12 = -5$
 (2) $7 - (-2) \times 3 = 7 - (-6) = 13$
 (3) $2 \times (-3) - 4 = -6 - 4 = -10$
 (4) $(-3) \times (-5) - 20 = 15 - 20 = -5$
 (5) $2 + 15 \div (-3) = 2 + (-5) = -3$
 (6) $3 - 12 \div 3 = 3 - 4 = -1$
 (7) $10 \div (-2) + 2 = -5 + 2 = -3$

H: 22 F: 4:45 ~ 5:25 11/22(土) Pr

① P. 116 ~ 117	B1	② A
A 1	(1) 11月11日	(1) 内閣不信任
A 2	(2) 11月11日	B 解散
A 3	(3) 午後1時	C 内閣総辞任
B 1	2時	D 衆議院
A 1	(1) 2時	(1) 解散
B 1	(2) 午後1時	(2) 内閣大臣
(1) 多岐見	(3) 衆議院	(3) 解散議員
(2) 香取	(1) 解散	(4) 衆議院
(3) 世田	(2) 公明党	(5) 行政権
(4) 野田	(3) 衆議院	(1) 解散
(5) 蓮舫	(1) 解散	(2) 解散
(1) 解散	(2) 解散	(3) 解散
(2) 解散	(3) 解散	(4) 解散
A 2	(1) 解散	A 国会
B 3	(2) 解散	B 内閣
C 1	(3) 解散	C 衆議院
D 1	(4) 解散	D 司法権

(1) 英語 AM 10:30 ~ AM 10:40 AM 11:30 ~ AM 11:40 (2008)

(2) I have been to America. (過去にアメリカに行ったことがある)

(3) Have you ever been to America? (アメリカに行ったことがありますか?)

(4) I have never been there. (私はまだそこへ行ったことがありません)

(5) Why don't you? (あなたはどうですか?)

I have a lot of things to do. (やるべきことがたくさんあります)

I have something to drink. (飲むものがあります)

Crowded	混雑した	fan	ファン
been	been	joke	ジョーク
math	Math	word	単語
anti	anti	impress	印象
as	as	performance	パフォーマンス
open	open	album	アルバム
may	may	be impressed with	感動する

英検問題 10問

- ① 1st day
- (1) 1 2 (2) 1 (3) 2 (4) 2 (5) 2 (6) 1 (7) 1 (8) 3 (9) 2 (10) 1 (11) 3 (12) 2
- ④ NO. 26 4 NO. 27 4
- ⑤ NO. 30 2 NO. 32 3 NO. 33 3 NO. 34 32 NO. 35 3
- (1) 1 3 (2) 3 (3) 1 (4) 3 2 (5) 3 (6) 3 (7) 1 4 (8) 4 2 (9) 4 2 (10) 2 1 (11) 2 3 (12) 3
- (1) purse - 財布 (2) last one's dinner
- $\frac{18}{35} \times 18$